

工学院大学主催
第10回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ

文の部門 最優秀賞

「桜の木を切ることに反対です」

私立帝京大学高等学校 沢井陽亮さん

桜の木を切ることに反対です

「人が集まる場所」をつくるための再開発

利便性と景観、安全性や機能性のある新しい街と今までの街の歴史

両方を兼ね備えた街をつくることは難しいのだろうか

「人が集まる場所」はどんな場所なのだろうか

鞆の浦と自宅の最寄り駅でおこっている事例をあげて

街づくりについて考えてみた

1. 鞆の浦の事例

学校で貰った冊子に、「広島県福山市鞆の浦の一部を埋め立て、橋を架ける計画を県が完全撤回した事」について書かれた社説がのっていた。

鞆の浦は古くから瀬戸内海の「潮待ちの港」として栄えた。そこには雁木と呼ばれる階段状の船着き場や常夜灯の他、幕末に坂本龍馬も立ち寄った風情ある街並みが残る。宮崎駿監督の映画「崖の上のポニョ」や、重松清の「流星ワゴン」がドラマ化されたときにも登場し、「万葉集」にも詠まれた日本有数の景勝地として有名だ。

そんな趣ある街で問題となっているのが、道幅が狭く、交通の便が非常に悪い事だ。鞆の浦の道は江戸時代から現在まで継承されてきたものなので、道幅がとても狭い。乗用車二台がすれ違うのがやっと、といった具合だ。しかし、有名な作品に出ている街として連日多くの観光客が訪れ、週末や行楽シーズンには道がとても渋滞する。車が行き交うのがやっとな上に歩行者も通行するため、とても危険だ。

そこで県と市が3つ案を出した。

①市街地の主要道路の道幅を広げる案、②トンネルをつくり、街地を避けるバイパス案、③護岸を兼ねて沿岸を埋めて、その上に道路を建設する案、の3つだ。その後の意見集約の際に、市街地景観の保護の為に①の案は撤回。建設費が高額という事から②の案も撤回され、沿岸景観を壊すという事から③の案も撤回された。そこで折衷案として③の案を沿岸の景観配慮の為に架橋に変更した案を出した。これによって高騰化する建設費は、防災・観光に利用できる施設を併設する事業で賄う、という折衷案だ。しかし、埋め立てを免許するには排水権者全員の同意を取り付けなければならなかった。それは困難だと思った福山市はこの計画を断念した。さらに広島県も計画凍結をした。

その後新市長が就任し、埋め立て架橋計画は再び実現に向かって進められることになった。ここでまた新たに3つの案が提案された。①沿岸を埋め立て、その上に架橋する案、②市街地を避けた山側にトンネルをつくる案、③沿岸を埋め立てるが、架橋の代わりに沈埋トンネルを用いる案、の3つだ。行政は①の架橋案が鞆地区の活性化や生活環境の整備に最も効果が高いと評価しており、この案に基づいた計画の実現を目指している。しかし反対派であるユネスコの諮問機関であるイコモスが景観の保全と計画の撤回を繰り返して勧告し、それに加えて宮崎駿や大林宜彦が鞆の街並み保存基金を設立した。そして世の中における景観や文化的財産に対する意識が高まり、観光への影響という考え方に変化が生じた。その結果、県は架橋案をやめ、②の山側トンネル案への転換を表明し

た。

この事案は景観保護を前面に出してきた住民運動が「動き出したら止まらない」と言われる公共事業を頓挫に追い込んだ画期的な1例になったと社説にある。

「歴史がはぐくんだ景観と、そこで暮らす住民の利便性を両立させること」
これから建築を学んでいきたいと思っている僕には、とても心に残る社説だった。

便利な場所には人が集まる。人口や観光客が集まることで町が活性化していく。
けれども、その街の景観が損なわれることもある。どちらを取るかは、難しい選択だ。

2. 僕の住んでいる街で起こっている事

これと似たような事例が僕の最寄りの駅前でも起ころうとしている。駅前のコミュニティーセンターは築後40年になることから建て替える事になっているが、それに加え施設が少し階段を上った所に建っているため、市はこの施設と駅とを結ぶデッキを建設し、それに加えてデッキに繋がるエレベーターもつくる予定でいる。



コミュニティーセンターまでの階段

駅前の桜の木

コミュニティーセンターはホールや集会室があり地域の人の集合場所として使われるほか、児童図書館を併設している。そのため、小さな子供やその親御さん、高齢の方が利用者の大半を占めている。

現在、この高台の施設に行くには階段を使うか、遠回りをして坂を上るしか手段がない。そこで市は建替の時にこの施設と駅とを直接結ぶペDESTリアンデッキを建設し、それに加えてそのデッキに繋がるエレベーターも造る計画を立てたのだ。これにより、今まで行くのが困難だった車いすの人や足腰の悪い人、ベビーカーを持つ親御さんなどの負担が軽減されるようになり、便利が増すと同時にバリアフリーにも対応できるようになる。

また、コミュニティーセンター利用する人だけではなく、階段を上った高台に住む人もこのデッキを使うことになるだろう。高台に古くから住む人の多くが高齢な為、住み続ける事を諦め、駅前のマンションなどに引っ越す人があとを絶たない。だが、デッキが出来る事で高台に住む人々の利便性が向上する。それによって、高台から引っ越していく人が減少するのと共に、新たに引っ越して来る人を見込む事も出来る。



デッキのイメージ図と現在の駅前の様子

しかし、デッキが出来る事でマイナスとなりうる事もある。それは、デッキの下にある商店に人が立ち寄りなくなるのではないかという事だ。

現在は改札から階段を下り、駅前のスーパーや商店で買い物や食事をして帰る人の姿が見られる。しかし、デッキが出来てしまうと、改札に直結して造られるので、スーパーなどの商店で買い物をする人が減ってしまうのではないかという問題点がある。

そして何よりも僕が残念に思うことは、このエレベーターをつくるために昔からある2本の桜の木を伐採しなければいけないのと同時に、花壇の一部も壊さなければならないこ

とだ。この桜の木は、僕の幼い頃からずっとあり、毎春とても綺麗に咲いている。駅を降りると緑いっぱいの街が広がっている事が、ここが一番の魅力だったはずだ。

駅前の大学も大きな木や池が校舎まで続いていたが、この数年の工事で近代的な建物に建て替えられ、昔の面影はほとんどなくなってしまった。桜の木が伐採されデッキができしまうと、更に今までのこの街のイメージはなくなってしまうだろう。

近代的で機能的な建物や街になることは、人々や街にとって有益なことだ。防災にも優れ、すべての人に優しい街になるのかもしれない。

しかし、今までのこの街の姿、歴史、イメージが消えてしまう事が僕には耐えがたい。桜の木が来年の春には無くなると思うと寂しくて仕方がない。

桜の木を残す方法は何かないだろうか。

今、階段になっている部分をエスカレーターにはできないだろうか。これなら追加分の敷地を必要としない。エスカレーターに車椅子やベビーカーを乗せることは禁止されていないが、とても危険だ。車椅子兼用のエスカレーターにするか、車椅子でも普通に乗るにも支障をきたさないようなフラットタイプのエスカレーターにするのはどうかと考えてみた。

今の僕には、この程度のことしか考えられないことが残念だ。

3. 「人が集まる場所」をつくる

人は「人が集まる場所」に集まる。そして、「人が集まる場所」は活性化していく。商業施設や医療機関、交通機関が整い生活しやすくなると、そこに住もうとする人はさらに増えていくだろう。

街が整っていくと知名度や人気上がる。そうする事でまた「人が集まる場所」となるのだ。

しかし、何もないところに街をつくっていくのなら、いくらでも理想の街が作れるが、鞆の浦や僕の住んでいる街が再開発するような場合は何かを犠牲にしなければならない。利便性をとるのか、景観や街の歴史をとるのか、そこが問題となる。

また、利便性だけでなく安全性や機能性も考えていかないと「人が集まる場所」はつくっていけないだろう。

僕は、小学生の時に父の転勤で福島県いわき市に住んだことがある。東日本大震災がお

こった時には東京に戻っていたが、当時の友達は避難所生活や転居を余儀なくされ、何度も行ったアクアマリン福島はほとんどの魚を失った。確かに、地震、津波、原発は確かに未曾有の災害だったかもしれない。しかし、慣れ親しんだ街が震災に巻き込まれていく姿を目の当たりにして、安全な街をつくることへの重要性を強く感じた。

そして、高齢者、子ども、障がいのある人にとっても住みやすく、優しい機能的な街でなければいけない。

僕はバリアフリーオーケストラという障がいをもつ人たちとのオーケストラで活動してきた。車椅子での移動、点字の表示、盲導犬など、その時に健康な人とは違う色々な設備や機能が必要だということを知った。

4. 僕の想い

僕は「人が集まる場所」は利便性があり、安全で機能的な全ての人に優しい場所でなければならないと思う。

そして、鞆の浦や僕の住むところのような再開発である場合は、そのことを考えた上で景観やその街の姿、歴史を残した場所であってほしい。

なぜなら、それは今まで積み上げられてきたものであり、1度でも壊してしまうと同じものを2度とつくる事は不可能だからだ。

そのためには、僕たちは色々なことを学んでいかなければならないと思う。景観や街の姿や歴史を残そうと思えば思うほど学ばなければいけないことは多いはずだ。

そして、これからの街づくりは建築士や行政だけでなく、地域の人や障がいのある人達にも参加してもらうことで、本当の魅力ある「人が集まる場所」が出来上がるのだと思う。

僕は、駅前の桜の木を切ることは反対だ。

駅を降りた時に、これからもずっと桜の木に出迎えてほしいし、春には綺麗な花を咲かせてほしいからだ。

この想いだけは、絶対に忘れない。

参考文献

鞆の浦を世界遺産にする会 <http://www.sawasen.jp/tomonoura/tomonoura/kakyo.html>

ウィキペディア 鞆の浦埋立て架橋計画問題

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%E5%9F%8B%E7%AB%8B%E3%81%A6%E6%9E%B6%E6%A9%8B%E8%A8%88%E7%94%BB%E5%95%8F%E9%A1%8C>

超地域密着型サイト preco <http://preko.jp/blog/format?blg=1064>

日テレ NEWS24 <http://www.news24.jp/articles/2012/06/25/04208305.html>

玉川学園町内会 <http://tamagawagakuen-chonaikai.net/2017/03/02/communitycenter-tatekae-4/>

河合塾出版 合格サプリ関東版 2017.6月号 朝日新聞「(社説)鞆の浦 景観重視の先例に」